



全国大会・東北指導会出場隊

〔全国大会〕 ◇陸上の部

種 目 名	消防本部名	隊員 (チーム) 名
ロープブリッジ渡過	能代山本広域	成田瑠菜
はしご登はん	五城目町	福嶋良磨
ほふく救出	大曲仙北広域	齊藤健太 チーム
ロープ応用登はん	大曲仙北広域	佐藤滯利 チーム

〔東北指導会〕 ◇陸上の部

種 目 名	消防本部名	チ ャーム 名
引 揚 救 助	北 秋 田 市	神成雄介 チーム
	大曲仙北広域	高橋奎人 チーム
	能代山本広域	中村元気 チーム
ロープブリッジ救出	横 手 市	栗津健汰 チーム
	男 鹿 地 区	大塚直道 チーム
	能代山本広域	工藤秀平 チーム
障 害 突 破	秋 田 市	高橋 戒 チーム
	横 手 市	鈴木 慎 チーム

◇水上の部

種 目 名	消防本部名	隊員 (チーム) 名
複 合 検 索	秋 田 市	鎌田晃遥
	秋 田 市	星野大地
基 本 泳 法	大曲仙北広域	進藤弘将
溺 者 搬 送	秋 田 市	熊谷里玖 チーム
	男 鹿 地 区	北條大紀 チーム
溺 者 救 助	能代山本広域	茂呂成倫 チーム
	能代山本広域	山須田 涼 チーム
水 中 結 索	能代山本広域	金平健太 チーム
	能代山本広域	鎌田晃遥 チーム
水 中 検 索 救 助	秋 田 市	鎌田晃遥 チーム

第52回
消防救助技術秋田県大会
秋田県消防長会

第52回消防救助技術秋田県大会(秋田県消防長会主催)が6月26日及び7月2日に開催され、出場隊員は日頃鍛えた救助技術を競いました。

6月26日秋田県立総合プール(秋田市向浜)で開催された「水上の部」には7消防本部から29人が、7月2日秋田県消防学校で開催された「陸上の部」には、13消防本部から216人が出場しました。

「陸上の部」開会式で、男鹿地区消防本部大塚直道消防士長が「我々隊



題 字
初代会長 松野盛吉

発行人
〒010-0951
秋田市山王四丁目1番2号
秋田地方総合庁舎内
秋田県消防協会
会長 高橋正尚
電話 018-867-7320
FAX 018-863-5910
<http://www.shoubou-akita.or.jp>
E-mail:ask@shoubou-akita.or.jp

印 刷
〒010-0951
秋田市山王7丁目5-29
株式会社 松原印刷社
電話 018-862-8760
<http://www.matsubarainsatsu.co.jp>

員一同は、日頃の訓練を十分に発揮し、最後まで諦めずに競うことを誓います。」と宣誓しました。

競技の結果、全国大会・東北指導会への出場隊は、別紙のとおり決定しました。東北指導会は7月に宮城県利府町(水上の部)と青森県八戸市(陸上の部)で、全国大会は8月に千葉県市原市で開催されます。



第75回 秋田県消防大会

|| 大仙市北郷支部 ||

第75回秋田県消防大会が、7月6日(土)、仙北ふれあい文化センター(大仙市)において、神部秀行秋田県副知事など多くの来賓を迎え、県内各地域から消防職・団員約500名が参加して行われました。

令和6年度消防功労者表彰では、大和施工建設(株)が優良事業所として知事表彰を受賞されました。

第18回消防団員意見発表会では、県南3支部から選出された3名が、活動で得た意見を発表しました。

続いて、日本赤十字秋田短期大学講師及川真一氏が、自身が被災した東日本大震災の経験を踏まえ、実践している、



大仙市消防団音楽隊による演奏

住民参加型の地域防災について講演しました。

その後、大曲高校書道部が、息の合ったパフォーマンスで迫力ある作品を作り上げ、会場を大いに盛り上げてくれました。

また、一般の方にも関心を持ってもらうため、大仙市消防団音楽隊が演奏会を開催したほか、キッチンカーの出店や屋外イベントを行い多くの親子連れで賑わいました。令和7年度は、大館北秋田支部の主催で開催されます。



大仙市消防団 田村健郎団長 歓迎のこたば

令和6年度 消防功労者表彰

■優良事業所表彰

優良事業所表彰は平成9年から実施され、受賞事業所は今年度で160事業所となりました。

表彰された事業所は相当数の消防団員が在職し、地域の消防活動に積極的に取り組んでいるなど、多年にわたって地域の消防団活動に貢献してきたことが評価されたものです。

受賞された事業所には、今後ますますの消防団活動へのご協力をお願いします。

■受賞事業所の概要

大和施工建設株式会社

秋田市川尻御休町1番6号

代表取締役 古戸 修

ガス管敷設工事、一般土木工事

事業所人員22名中消防団員5名



表彰式の様子

第18回消防団員意見発表会

この意見発表会は、消防団員が日頃の活動で考えたことや経験した事例などの発表を通じ、消防団活動のあるべき姿や消防人としての役割を再認識し、これからの活動をより充実したものにすることを目的に、平成17年度から実施しています。

■発表者とテーマ

「消防団活動で得たもの」

仙北市消防団 阿部 千晶

「決して楽ではない。けれども続けられるだけ続けていく。」

横手市消防団 石橋 一則

「私たちが活動する意味」

東成瀬村消防団 高橋 優子



左から阿部さん、石橋さん、高橋さん

講 演

「楽しさから学ぶ防災教室」

～住民参加型の地域防災について～

日本赤十字秋田短期大学

講師 及川真一氏

講演の概要

東日本震災が発生した当時、介護福祉士の私は、高齢者や障害者を守ることを懸命に考え生徒にも教えていた。だが、津波が一瞬で多くの命を奪っていった。今の方法では、大切な命を守れない。別の方法が必要。これが現在の活動の原点だ。

震災から13年。人々の記憶が薄れ、震災を知らない世代も増えてきた。地域の安全を支える消防団員も減少の一途だ。こうした中、地域全体の防災力を強化するために、住民一人一人の防災力をどうやって向上させるかを考えた。

その結果、防災を学ぶことは「難しい」という意識を「楽しい」に変換することが必要だと気がつき、現在は、キャンプを体験しながら防災を学ぶことを実践している。

日本赤十字主催を強調した防災講座のPRを止めて「防災キャンプ」には2日間で約7000人も来場するようになった。

災害が発生すると、誰もがアウトドアの世界に放り出される。テントや段ボールベッドの組み立て、野外食事など、体験によってノウハウを身につけた人が多くなれば、地域防災力は確実に向上し、多くの命が救われるようになるだろう。



及川真一氏

書道パフォーマンス

大曲高校書道部は、創部70年を迎え、現在19名が在籍しています。

主な活動は「展覧会作品の制作」と「書道パフォーマンス」で、特に書道パフォーマンスでは、昨年、北海道・東北大会で優勝し、幕張で開催された全国大会に出場しました。

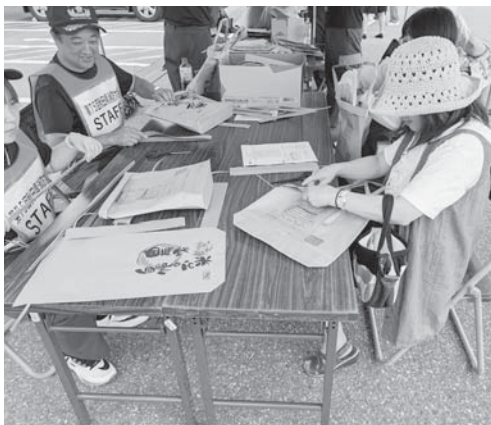
今後も伝統の重みを胸に刻みながら新たな歴史を紡ぎ、更なる飛躍を目指し日々努力を続けていきます。



作品「勇猛精進」

屋外イベント

参加型イベントに約50000人が来場し、多くの親子が楽しみながら消防への理解を深めました。



米袋を利用したトートバック作り



レスキュー体験



はしご車体験



放水体験

第 78 期 初 任 教 育

実 務 研 修 を

終 えて

秋 田 県 消 防 学 校



菅 原 義 仁
(秋 田 市 消 防 本 部)

今回は初めての泊まり勤務だったので、沢山の訓練ができて先輩たちとの時間も長かった。また、仕事のサイクルや普段の仕事環境を深く知ることができた。

訓練は、折り島田やホースカーの使用法、ホース展張の仕方、ノズルを使った放水訓練などを行った。これらは消防学校の訓練でも行うことなので、しっかりと覚えておきたい。

休憩の時など、先輩たちが話しかけてくれたお陰で緊張もほぐれ、リラックスして2日間を過ごすことができた。夜ご飯は中華丼を作った。私はあんかけが苦手だったが、皆で作った食事は美味しく感じた。消防の食事はご飯の量が多いから、何もしないとすぐに太ってしまうことも教えてもらった。

今回の研修を通して、沢山のことを学び感じ取ることができたので、それを活かして残りの学校生活も頑張りたいと思う。



小 林 拓 野
(北 秋 田 市 消 防 本 部)

今回の実務研修では1日宿泊ということで、次の日の朝まで勤務をしました。

私の所属では、毎朝、車両と資機材点検が行われます。チェンソーやエンジンカッターの点検は訓練を振り返りながらできました。資機材点検は出動に備えるため、同じ場所に置かれているかなど、すぐ使えるように毎日の点検を注意深く行わないといけないと改めて感じました。

午後からはホース延長要領や島田折りの訓練をしました。夜の勤務は、人が少なくなると緊張感があり、自分たちに任せられた仕事があったので緊張した面もありましたが、とても良い経験でした。また、夕食は先輩方と一緒に作りました。夕食は若手が作らないといけないので、しっかりと練習したいです。

夜は寝られなかったので慣れるようにして、出動に備えた準備を怠らずに生活していきたいと思いました。

所属に戻った時にすぐに戦力になれるように残りの訓練で基礎を身につけ、一日一日を大切にしていきたいです。



佐 々 木 和
(横 手 市 消 防 本 部)

私は、7月4日と5日に、所属の消防署で隔日勤務をしました。

研修では、救助機器の点検を手伝ったり訓練をしました。その他にも、所属に戻ってすぐに行うことなどを丁寧に教えていただきました。

訓練は、折り島田のホースの延長要領やホースバック、ホースカーでのホースの延長要領を行いました。お手本として展示してくれた先輩

方の延長は、ホースがきれいに延ばされ、とてもスムーズでした。自分たちがやった時は、ホースがねじれていたり、金具が落ちたりしました。

また、防火衣着装のタイムを計り、遅いと言われました。先輩方は、出動するときの動き出しや着装が早く、自分が未熟であると改めて感じました。

残り少なくなっている学校での訓練に全力で取り組み、先輩方との差を少しでも縮め、現場に出た際に迷いなく動き、隊の一員として力を発揮できるように日々精進していきたいと思いました。

今回の経験をこれから繋げていきたいです。



澤 田 羽 夏
(鹿 角 広 域 行 政 組 合 消 防 本 部)

7月4日から5日にかけて実務研修を行った。印象に残っている訓練として放水訓練、通信業務がある。

放水訓練では、出動から放水までの一連の活動を行った。呼吸器の着装に不慣れなこともあり、狭い車内で完全着装するのに時間を費やしてしまった。また、完全着装した状態での動きにくさや、呼吸器を背負って走る大変さを実感した。

1回の短い訓練であったが、絞る出るほどの汗と疲労を感じた。実際の現場では、暑い中で長時間の活動になるため、さらに体力が必要だと感じた。

通信業務では、119番通報の受け取り方を学んだ。正確な場所を特定し、傷病者の状態を聞き出すにもコツがあり、管轄区域の地理を把握しておくことの必要性を学んだ。

その他にも様々な訓練を行ったが、学校で学んだことを活かされたのはほんの少しであり、消防士として未熟であると感じた。

残り約2ヶ月の学校生活で、少しでも多くの知識と技術を身につけ、現場で活動できるように頑張りたい。



高橋 瑛斗
(能代山本広域市町
村組合消防本部)

7月4日から5日にかけて1泊2日の実務研修では、担当業務や通信業務をこなせるか不安だった。

午前中、保育園に向向して消防訓練を視察して、放水訓練の展示を行った。その後は、チェンソーなどの破壊器具の資機材点検を行った。

午後は、普通車からタンク車への補給体制、タンク車からのホース延長訓練を行った。

救急訓練では、BLSを行い授業や実技訓練で学んだことを活かすことができた。

その後は、予防業務を行い、22時から24時まで通信業務に就いた。災害や救急はなかったが、いつ無線が来てもいいように備えることができたと思う。

午前2時頃に駆け込みの救急があり、資機材の準備などで救急隊のサポートをすることができた。

今回の実務研修で、消防訓練出向や訓練、事務作業が1日を通してあるため、常に体制を整えておかなければならないことを改めて感じた。

学校での訓練を活かすことができたので今後の消防人生の糧にした。



高橋 陽
(大曲仙北広域市町
村組合消防本部)

この実務研修では、ここまで自分ができるというのを思い知らされた。普段の訓練とは違い緊張感があり、失敗してはいけない空気、精神がとても疲れた。

一番できなかったのが空気呼吸器だった。学校の授業では2回やって、点検要領と着装をしていたが名称を覚えていなくて、着装訓練ではうやむやなままやってしまった。漏気の確認や活動時間の計算など、できない事だらけだった。そく止弁開放を忘れていたり、緊張のあまりでできなかった。

隊員の人達に「こんなこともできないのか」と怒られ、朝からテンションが下がり、今までの訓練で自分は何をしていたのだろうと思いつけられた。

三連梯子では指揮者をやったが、いつもと違う条件の建物で番員にわかりやすく、的確に指揮をとることができなかった。

自分にまだ足りていないところが分かり、学校に戻ったら覚えたいといけないところや身につけないといけないことを理解し、今後の訓練で甘い考えは捨てて死に物狂いになっ



長澤 哉
(大曲仙北広域市町
村組合消防本部)

7月4日、5日に角館消防署で泊まりの実務研修を行った。今回感じたことは、自分の考えが甘すぎていたことだ。

呼吸器の点検要領を行った時、漏気確認をするのを忘れてしまった。一つのミスで自分の命はもちろん、共に活動する隊員の命も危険にさらし、迷惑をかけることになる。点検では一つも見落としてはならないことを痛感した。「点検は現場と同じように」を意識して活動していきたい。

そして、初めて指令から放水までの一連の流れの訓練を行った。防火衣を着装しながら指令内容を聞くことが出来なかった。また、車両での呼吸器着装に時間がかかってしまった。以後このようなことがないように、迅速に着装しながら指令内容を聞き取る冷静さと、狭い空間でも正確に呼吸器を着装する技術を身につけていきたい。

今回の訓練は、現場に一番近い状況での訓練だったと思う。これが基本になるので、基本を固めて応用に入っていけるように、消防学校での座学や訓練に臨んでいきたい。



令和6年度消防団員数の概要

令和6年4月1日現在の消防団員数(速報値)の概要は次のとおりです。(秋田県総合防災課消防保安室調査)

1. 消防団員数は14,041人

消防団員数は減少傾向が続いており、前年比505人減の14,041人となりました。

条例定数充足率は81.2%、被雇用者率(サラリーマン化率)は78.1%となっています。(単位:人、%)

	H31. 4. 1	R 2. 4. 1	R 3. 4. 1	R 4. 4. 1	R 5. 4. 1	R 6. 4. 1
消防団員数	16,275	15,894	15,473	15,131	14,546	14,041
前年同期比	△ 378	△ 381	△ 421	△ 342	△ 585	△ 505
条例定数充足率	87.7	85.9	84.8	84.5	83.4	81.2

2. 女性消防団員は9人減の459人

女性消防団員は年々増加してきていましたが、今年度は減少に転じ前年比9人減の459人となりました。

(単位:人、团)

	H31. 4. 1	R 2. 4. 1	R 3. 4. 1	R 4. 4. 1	R 5. 4. 1	R 6. 4. 1
女性消防団員数	390	415	429	467	468	459
前年同期比	6	25	14	38	1	△ 9
女性団員採用消防団数	19	21	20	21	21	21

3. 機能別団員は20消防団、1,366人

機能別団員制度が県内に導入された平成19年度以降、団員数は年々増加しており、前年比51人増の1,366人となりました。

(単位:人、团)

	H31. 4. 1	R 2. 4. 1	R 3. 4. 1	R 4. 4. 1	R 5. 4. 1	R 6. 4. 1
機能別団員数	817	1,045	1,163	1,278	1,315	1,366
前年同期比	101	228	118	115	37	51
機能別団員制度導入消防団数	14	18	19	20	20	20



消防団員募集

地域の安心と安全を守るために、
あなたにもできることがあります。



消防団・消防団員とは

消防団は、消防本部や消防署と同様に市町村の消防機関の一つです。

消防団員は、本業を持ちながらも「自らの地域は自らで守る」という郷土愛護の精神に基づいて、地域の安全・安心を確保するために活動する非常勤特別職の地方公務員です。

消防団員の減少で、地域防災力の低下が懸念

本県の消防団員数は、昭和31年には3万6千人が在籍していましたが、年々減少し続け、令和6年4月1日現在では、約4割の1万4,041人と

なりました。

地域の消防防災力の低下が懸念されています。

多くの方の消防団入団を期待

消防団は、地域防災の中核的な存在で、地域の安全・安心を確保するために大変重要な組織です。

一人でも多くの方に、消防団活動に参加いただけることを期待しています。

トーハツ消防ポンプ
モリタ自動車ポンプ 総合防災設備センター
消防被服全般
秋田県代理店

株式会社 高義商会

(営業種目)

トーハツ小型動力ポンプ
モリタ自動車ポンプ
ジェットホース
消防被服全般
火災報知器各種
消火器各種



〒012-0105 本社 湯沢市川連町字万九郎屋布32
TEL(0183)(42)2125
〒012-0844 湯沢市田町 TEL(0183)(73)2588

株式会社 夕カギ

秋田県横手市寿町1番28号
TEL (0182)(32)3880
FAX (0182)(32)0839

(営業種目)

日本機械自動車ポンプ | 消防設備保守点検
トーハツポンプ | キンバイホース
各種消防機械器具 | 各種消火器

ホームページ <http://it-yokote.sakura.ne.jp/>
E-mail ykttkg@jasmine.ocn.ne.jp

令和6年度消防団員数(令和6年4月1日現在)

(単位:人、%)

地域名	消防団名	条例 定数	実 団 員 数				定 数 充足率	女 性 団員率	前年比較	
			総数	男性	女性	うち 機能別 団員数			団員数	増減数
鹿 角	鹿角市	820	721	689	32	70	87.9	4.4	749	△ 28
	小坂町	150	103	99	4	0	68.7	3.9	114	△ 11
	地域計	970	824	788	36	70	84.9	4.4	863	△ 39
北秋田	大館市	980	816	753	63	34	83.3	7.7	853	△ 37
	北秋田市	670	552	532	20	28	82.4	3.6	576	△ 24
	上小阿仁村	100	68	68	0	2	68.0	0.0	71	△ 3
	地域計	1,750	1,436	1,353	83	64	82.1	5.8	1,500	△ 64
山 本	能代市	745	600	536	64	149	80.5	10.7	629	△ 29
	藤里町	125	98	98	0	0	78.4	0.0	99	△ 1
	三種町	507	398	390	8	74	78.5	2.0	405	△ 7
	八峰町	330	237	231	6	34	71.8	2.5	244	△ 7
	地域計	1,707	1,333	1,255	78	257	78.1	5.9	1,377	△ 44
南秋田	男鹿市	820	704	686	18	117	85.9	2.6	728	△ 24
	潟上市	473	405	392	13	16	85.6	3.2	418	△ 13
	五城目町	205	143	136	7	39	69.8	4.9	155	△ 12
	八郎潟町	75	59	59	0	0	78.7	0.0	61	△ 2
	井川町	145	104	99	5	6	71.7	4.8	108	△ 4
	大潟村	67	46	46	0	11	68.7	0.0	50	△ 4
	地域計	1,785	1,461	1,418	43	189	81.8	2.9	1,520	△ 59
秋 田	秋田市	2,100	1,521	1,482	39	128	72.4	2.6	1,564	△ 43
由 利	由利本荘市	1,524	1,369	1,348	21	197	89.8	1.5	1,425	△ 56
	にかほ市	460	419	409	10	59	91.1	2.4	430	△ 11
	地域計	1,984	1,788	1,757	31	256	90.1	1.7	1,855	△ 67
仙 北	大仙市	1,375	1,009	950	59	76	73.4	5.8	1,070	△ 61
	仙北市	630	438	421	17	16	69.5	3.9	461	△ 23
	美郷町	360	291	290	1	26	80.8	0.3	313	△ 22
	地域計	2,365	1,738	1,661	77	118	73.5	4.4	1,844	△ 106
横 手	横手市	2,400	2,052	2,023	29	215	85.5	1.4	2,073	△ 21
雄 勝	湯沢市	1,555	1,378	1,349	29	69	88.6	2.1	1,417	△ 39
	羽後町	467	358	354	4	0	76.7	1.1	379	△ 21
	東成瀬村	200	152	142	10	0	76.0	6.6	154	△ 2
	地域計	2,222	1,888	1,845	43	69	85.0	2.3	1,950	△ 62
計	25消防団	17,283	14,041	13,582	459	1,366	81.2	3.3	14,546	△ 505

支部情報アラカルト

羽後町防災訓練

を実施しました

6月30日(日)、仙道地区で羽後町防災訓練を開催しました。今年度は、大雨による土砂災害を想定した訓練で、地域の方や、消防署羽後分署、消防団、仙道地区自主防災会、社会福祉協議会など150人が参加。住民避難訓練や炊き出し訓練、防災教室などのほか、初めて「羽後町公式LINE」を活用した避難情報の伝達訓練



も実施、迅速かつ正確な情報発信ができるよう手順などを再確認しました。

また、羽後町消防団では、消防車両と防災行政無線による緊急情報の伝達訓練を実施。昨年度新たに組織された「仙道地区自主防災会」約30名は避難所の運営訓練に参加、避難者カートの記入補助やトリアージなど実災害を想定して行われました。

今回の防災訓練をとおして、平時から消防団と自主防災組織、一般住民の連携が防災・減災への備えとなり、安全安心の街づくりの要になると確信した活動となりました。



火災の発生状況 (速報値)

(秋田県総合防災課消防保安室調べ)

	令和 6 年		令和 5 年			同期比較	
	7 月	累計	7 月	累計	年計	7 月	累計
建 物	9	107	12	115	184	- 3	- 8
林 野	0	35	0	19	25	0	16
車 輛	2	20	1	14	25	1	6
その他	2	83	0	54	84	2	29
合 計	13	245	13	202	318	0	43
死者数	2	15	0	9	21	2	6
負傷者数	1	52	0	39	67	1	13

(情報提供) 湯沢市雄勝郡支部



モリタ消防ポンプ シバウラポンプ
桜ホース・ソフト吸管 消防被服一式
各種消火器 消防機器一式

株式会社 能代消防センター
株式会社 協 立

〒016-0814 能代市能代町字中川原33番地57
TEL (0185) (52) 6494
(52) 6361

地域の防災、災害対策に貢献!

消 防 ポンプ自動車
小型ポンプ
ホース
設 備 火災報知器
スプリンクラー
消火器

猿田興業株式会社
防災事業部

〒010-0962 秋田市八橋大畑一丁目1番32号
TEL 018(863)1551 FAX 018(853)6311